

軟弱野菜出荷調製作業の労務改善研修会開催

【平成 29 年 3 月 27 日 掲載】

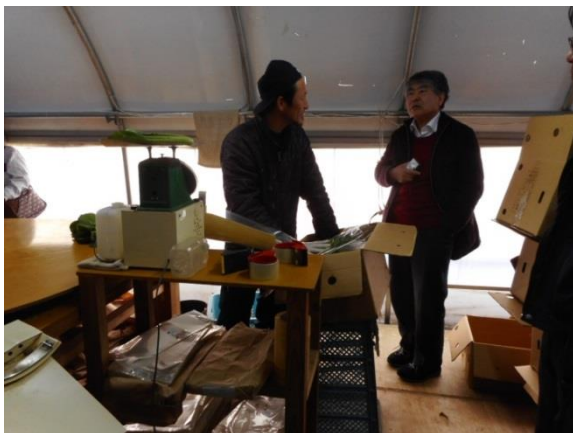
西部農業技術指導所では、3月15日、広島市安佐南区沼田町で軟弱野菜の出荷調製作業における労務改善研修会を開催し、46名（生産者20名、指導所及び関係機関26名）が参加しました。

研修会は、軟弱野菜栽培において、総労働時間の約8割を占める出荷調製作業について、負担軽減による効率

化を図ることを目的とし、(有)ウド・エルゴ研究所の宇土博（うどひろし）氏を招き、人間工学の視点から改善策を導き出す手法を学びました。

はじめに、(株)ルンビニ農園（今田典彦（いまだのりひこ）代表）の出荷調製場でこまつなの作業状況を確認しました。

次に、宇土氏より「元気な職場や生活をデザインするワークデザイン～軟弱野菜の収穫・調製作業の改善～」と題して講演があり、腰や手にかかる負担を最小限にするための姿勢や機材等の紹介や、収穫から調製作業までに多いコンテナの持ち上げ作業の負担を軽減するために、作業台と運搬機の高さを揃えるなどの助言がありました。



【意見交換を行う宇土先生（右）と今田氏】



【こまつな出荷調製作業の実演】

研修会後のアンケート調査で、生産者からは「理にかなっていて良かった。」「ひとつひとつの作業で、工夫や持ち方で体の負担が改善できると感じた。」など作業改善に前向きな感想が出されました。